

米英によるイラク侵略と占領を非難するアジア平和連合（ＡＰＡ）の声明

アジア平和連合（ＡＰＡ）

私たちアジア平和連合（ＡＰＡ）は、米英軍によるイラク侵略と占領を強く非難します。この侵略は、忌むべき大量破壊兵器の使用、無防備の一般市民の大量殺戮、そして社会そのものの破壊によって、主権をもつ一国民を征服するという厚顔無恥な行為です。そしてそれは、世界中に沸き起こった圧倒的な民衆の抗議に傲慢に挑戦しつつ行われたのです。私たちはこの行為を、国連憲章と国際法を侮蔑的に踏みにじる重大な戦争犯罪、また人道にたいする犯罪として、非難します。

「サダム・フセインの武装解除」から「体制変更」へ、さらにイラク国民の「解放」へと、次々に口実を変えた米国は、この戦争を合理化するまともな理由をいっさい世界に提示できませんでした。

占領は解放ではありません。イラク民衆に「自由」を与えるというジョージ・ブッシュの言い分は、深く人種差別的で、その上、米英両国がフセイン政権がもっとも残虐だった時期に、この政権の同盟者であったことを考えるなら、このような主張は、どう考えても真実ではありえません。まずこの独裁政権を積極的に支持し、次に一二年にわたって爆撃を加え、同時に国連機関がジェノサイドと呼んだ経済制裁を行ってきたこの両国の歴史は、彼らが、いまになって突然持ち出した「イラク民衆の幸福を願っている」などという言い分を完全に無効にしています。

侵略軍による国土の軍事占領と計画されている米国の軍事行政もしくはカイライ政権の押し付けには、一片の合法性もありません。したがってそれは、国際平和への重大で差し迫った脅威として拒否されなければなりません。

私たちは、米英占領軍のイラクおよびこの地域全体からの完全撤退を要求します。これは西アジア問題の平和的解決の前触れとなるでしょう。

私たちはまた外国企業がイラクの資源を奪い、多国籍企業や銀行の進出の露払いをするためイラクに進出することに反対します。私たちは、いまイラクで行われるどんな国際的活動も、戦争の傷跡を癒し、人びとの手に入る形で食料と医薬品を生産し、民衆の基本的必要に応え、イラクがイラクの民衆のみによって運営されることを保証するものでなければならぬと信じます。

私たちは、国連の主催下今日の危機についての国際会議を開くべきだという平和を愛する多くのイラクの人びとと組織の呼びかけを支持します。民主的で平和を愛するイラクの諸勢力の代表者がこのような会議に参加することによって、移行期の問題に取り組み、真の民主的変革と社会改革への道を開くプロセスが開始されるでしょう。

私たちは国際社会が、米国の圧力と脅迫に屈しないよう訴えます。米国は、その行為の結果を既成事実として世界に受け入れさせるために圧力と脅迫に訴えているのです。国際社会はそれに屈することなく、国連憲章と国際法に立ち戻らなければなりません。私たちは、世界各国が、国連安保理事会の決議によってこの戦争の非合法性を非難し、米国がさらなる侵略に踏み出すことを阻止するために緊急に行動するよう訴えます。

アジアの平和運動の連合として、私たちは米国のイラク侵略を支持した諸国政府、とくに日本、韓国、フィリピン政府に、その立場を根本的に再検討し、国際社会に法と規範を取り戻そうとする諸国政府と力を合わせるよう訴えます。

米国のイラク侵略に合法性を与えることを拒否せず、認めてしまうなら、それは、米国には気に入らぬ国を攻撃する権利、思うままに世界を実効支配する権利があるとする米国の主張に道を開くことにな

るでしょう。それは、絶え間ない戦争と暴力、征服と流血の忌わしい時代を導き入れるでしょう。ワシントンから引き続き聞こえてくる好戦的な叫び、シリア、イラン、北朝鮮を次の標的と名指す発言を聞けば、世界平和にはきわめて憂慮すべき未来が待ち受けていることを感じ取ることができます。

私たちは、この侵略と植民地主義的占領の過程で殺され傷ついた何千、何万というイラクの人びと、子どもたち、女たちに深い悲しみと共感を表します。私たちは、傷つき病む人びとに直ちに医療が与えられるよう要求します。それはジュネーヴ条約が定める義務なのです。

今日のイラクは混沌と無法のなかに置かれています。数十万の米英軍の目前で、積年の恨みを晴らす行動が起こり、人種的紛争が表面化し、掠奪が横行しています。この無政府状態はそれ自身ジュネーヴ条約の著しい違反を表しています。米英政府は、国際法の侵犯について責任を負わなければなりません。

さらに米国の同盟者であるイスラエルによる国際法無視が続いています。米国によるイラク占領とイスラエルによる占領地の植民地化は繋がっていると私たちは信じています。その両方が、西アジアおよび世界における米国覇権の確立にとってのカナメなのです。

国際社会が、米英の植民地主義的イラク占領とパレスチナ人民へのイスラエルの襲撃の継続について沈黙を守りつづけるなら、そのつけは、アジアと世界全体へのアメリカの覇権の強化という形で回ってくるでしょう。その不可避の結果は、安全の欠如とテロリズムの激化、軍事化の一層の進行、核拡散、民衆の貧困と周縁化の一層の深化などであるでしょう。

私たちは、この非合法の戦争と占領に反対して立ち上がった国々に、人びとが、この帝国の振舞いに抵抗し、反対するよう呼びかけます。私たちは、世界各地の反戦・反占領のキャンペーンの盛り上がり大きく力付けられ、民衆の声と望みをはっきりと表明しようとする平和運動がアジア全域に育っていることに励まされています。

私たちは、真の平和と社会正義を求める世界中のグループ、個人、ネットワーク、そして運動が行動を続け、協力を強めるよう呼びかけます。今日のような危機の時期には、私たちの力は、民衆に根ざした連帯の中にあります。この連帯によって私たちは、国境その他の境界を越えて私たちを結びつける共通の平和へのヴィジョンを描くことができます。

二〇〇三年四月二五日

アジア平和連合（A P A）